

函館商業学校歌

一 巴ともゑの海うみの波なみの音ね 臥牛ぐわぎうの山やまに響ひびく時とき

望のぞの胸むねに文ふみ乗のりせて 静しずかに學まなぶぶ半千まなふの

健兒けんじを照てらせ文明ぶんめいの 燈ともしび 高たかく彌いや高たかく

二 高たかき光ひかりを照てしては 海うみの底そこなる眞玉まなまもや

山かみに陰かげるゝ鑛あらがねも 取とりて飾くわうこくれよ皇國くわうこくを

富との光ひかりに外國とつくにも 君みいつの稜威りやうゐを仰あがぐまで

三 海うみには踊うおる魚いしの群むれ 陸こかねぐさには實みる黄金草こかねぐさ

類稀たぐいまれなる寶藏たからぐらの 扉とびら開ひらかむ鍵握かぎる

吾等われらが負おひし天分てんぶんの 重たかきは高ほまれき譽ほまれかな

四 嗚呼あゝ秀麗うまの地ちに生うまれ 茲こゝに榮はえある商業しょうぎやの

平和へいわの銚ほこを手に執とりて 理想りやうの駒こまに鞭打むちうたむ

草莽そうもうなびき花開はなひらき 凱歌がいを高たかく舉あぐるまで